

概 要

【概要】

(1) はじめに

科学技術・学術政策研究所(以下 NISTEP)では、科学技術に関する国民意識データを収集し、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資することを目的として、2009年度から、「科学技術に関する国民意識調査」を実施している。

本 2023 年度調査(2023 年 6 月調査)は、15 歳から 69 歳までの男女合計 6,600 人にインターネットを使って調査したものである。

(2) 調査の概要

本調査は、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資する基礎データの提供を目的として、2009 年度以来、NISTEP が科学技術に関する国民意識を把握するために継続的に実施している。

1) 調査対象

インターネット調査会社にモニター回答者として登録している者である。

2) 調査期間及び調査方法

2023 年 6 月にインターネットによって実施した。

サンプル数は N=6,600 で、回答者年齢は 15-69 歳、サンプリングの層化として、男女同数(男性 3,300 名、女性 3,300 名)、15-19 歳、20-24 歳、25-29 歳…60-64 歳、65-69 歳で同数(11 の年齢層、1 年齢層当たり 600 名)とした。

3) 調査時点

2023 年 6 月 7 日から 6 月 21 日にかけて実施した。

4) 調査項目

今般の調査では特に科学技術とウェルビーイングとの関係を把握することが目的である。

(3) 調査結果の概要

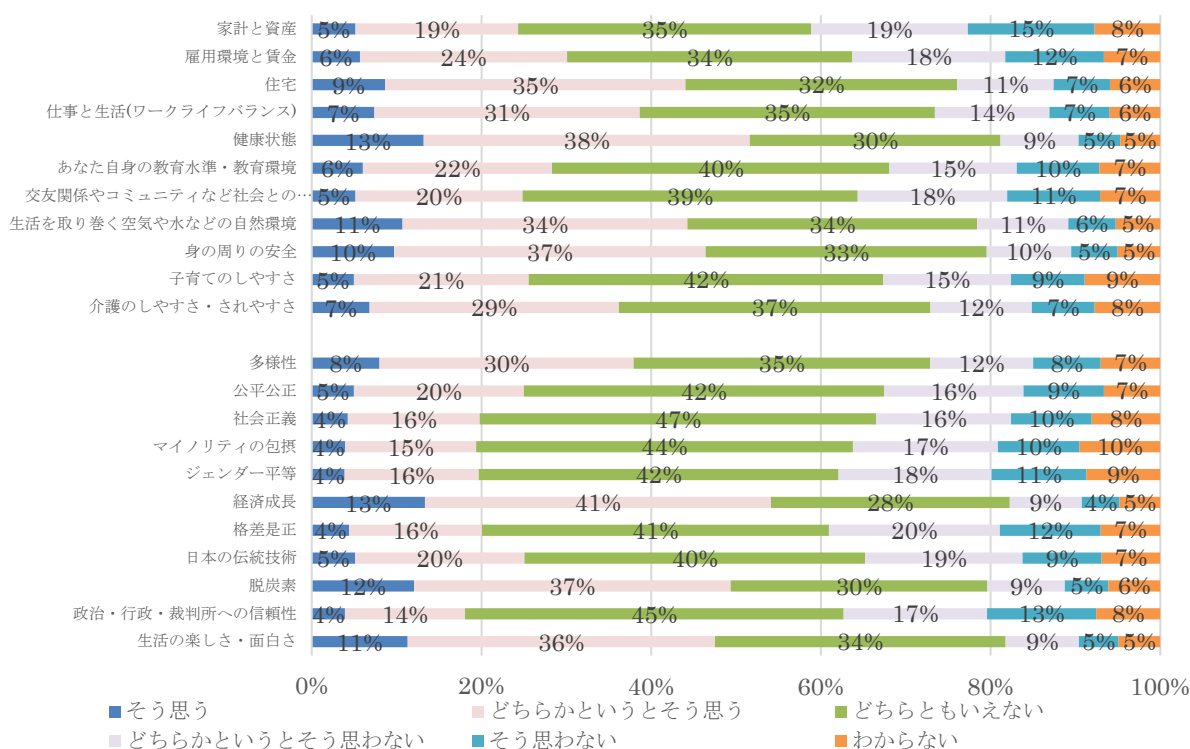
概要では、調査結果のうち、1) 科学技術とウェルビーイングの関係に関する国民の意識に関する調査結果について示すとともに、2)ウェルビーイング測定項目についての調査結果、3)各ウェルビーイング分野における増進と満足度との間の相関分析、4)科学技術の発展にともなう不安と満足度との間の相関分析についても紹介する。

本調査では一人ひとりの多様な幸せ(以下において「ウェルビーイング」という)をもたらす分野として「満足度・生活の質に関する調査報告書 2022(内閣府)」^[1]において満足度が調べられている 11 分野に準拠して設定した(概要図表 1-1 の上段 11 分野)。さらに、NISTEP が検討し設定した 11 分野を加えた(概要図表 1-1 の下段 11 分野)。

1) 科学技術とウェルビーイングの関係に関する国民の意識に関する調査結果

① 科学技術の進歩が各ウェルビーイング分野の増進に繋がっているかについての国民の意識

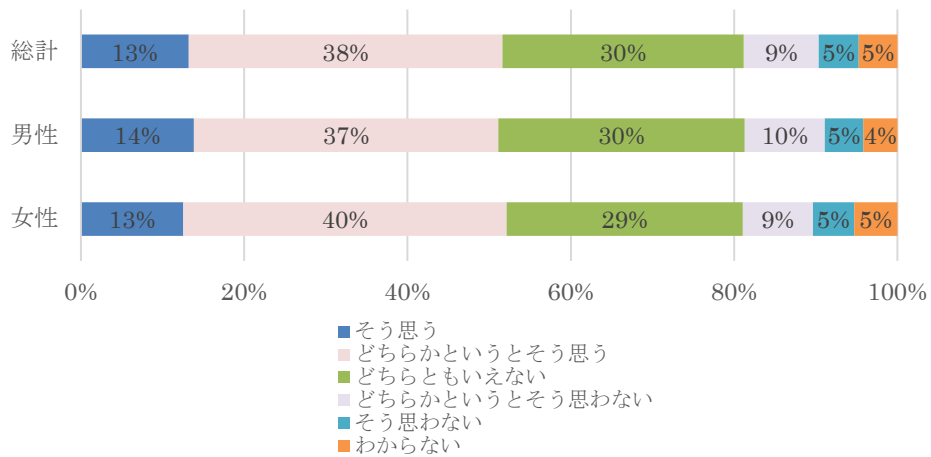
科学技術の進歩が上述のウェルビーイング 22 分野の増進に繋がっているか国民の意識を調べたところ、概要図表 1-1 となり、「(どちらかという)と思う」が 50%を超えるのは、健康状態、経済成長の 2 つとなる。



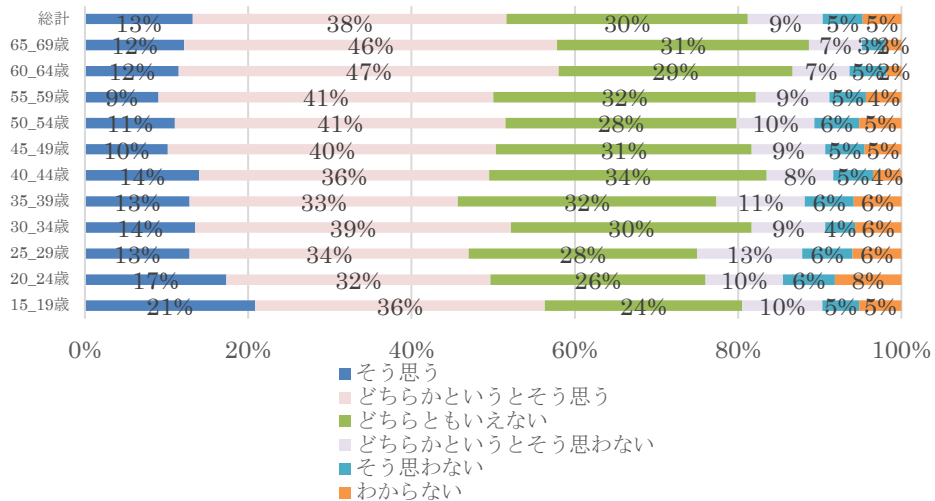
概要図表1-1 q9,q10科学技術進歩の総計比較

健康状態の集計結果を「性別」および「年齢別」で見たとところ、「性別」(概要図表 1-2)では男性((どちらかという)と思う 51%)と女性((どちらかという)と思う 53%)はあまり変わらない。わからない、については男性が 4%、女性が 5%該当している。

一方、「年齢別」(概要図表 1-3)では若い世代(19 歳以下)とシニア世代(60 歳以上)で「(どちらかという)と思う」が高いことが判明した。

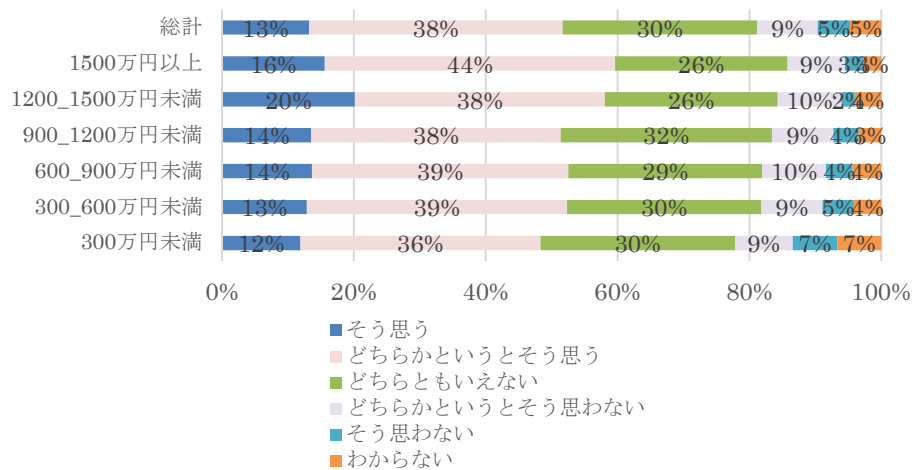


概要図表1-2 q9_5科学技術進歩_健康状態 (性別)



概要図表1-3 q9_5科学技術進歩_健康状態 (年齢別)

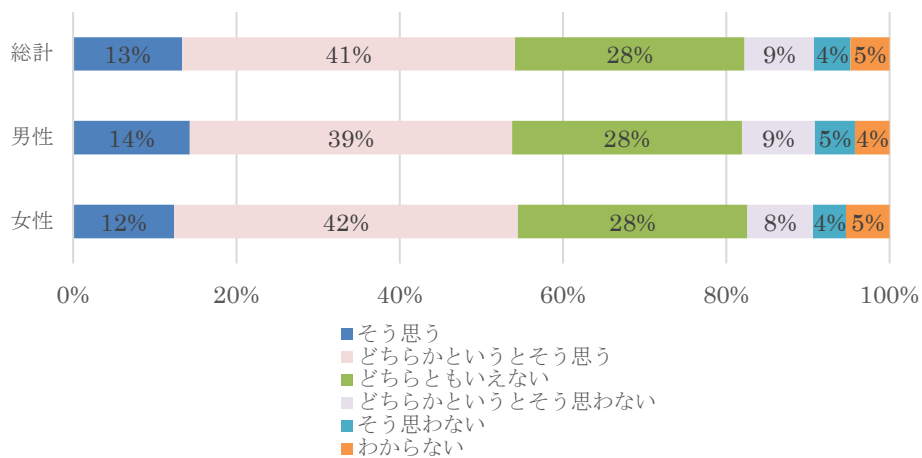
加えて、「税込世帯年収別」で見ると、概要図表 1-4 となり、年収「1500 万円以上」階級をトップに年収が高くなるにつれて「(どちらかという)と思う」が概ね単調に多くなっている。



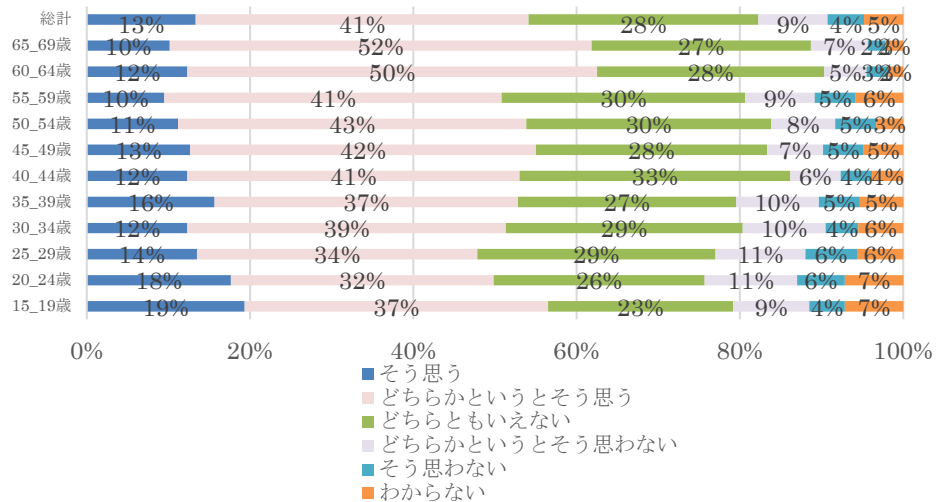
概要図表1-4 q9_5科学技術進歩_健康状態 (税込世帯年収別)

経済成長の集計結果を「性別」および「年齢別」で見たところ、「性別」(概要図表 1-5)では男性((どちらかという)と思う 53%)と女性((どちらかという)と思う 54%)はあまり変わらない。わからない、については男性が4%、女性が5%該当している。

一方、「年齢別」(概要図表 1-6)では若い世代(19歳以下)とシニア世代(60歳以上)で「(どちらかという)と思う」が高いことが判明した。

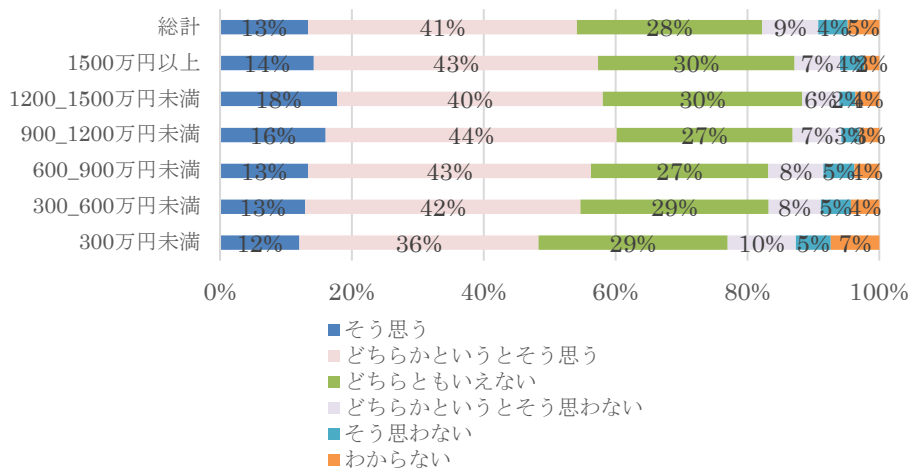


概要図表1-5 q10_6科学技術進歩_経済成長 (性別)



概要図表1-6 q10_6科学技術進歩_経済成長（年齢別）

加えて、「税込世帯年収別」で見ると、概要図表 1-7 となり、年収「900-1200 万円未満」階級をトップに年収が高くなる、また低くなるにつれて「(どちらかという) そう思う」が概ね単調に少なくなっている。



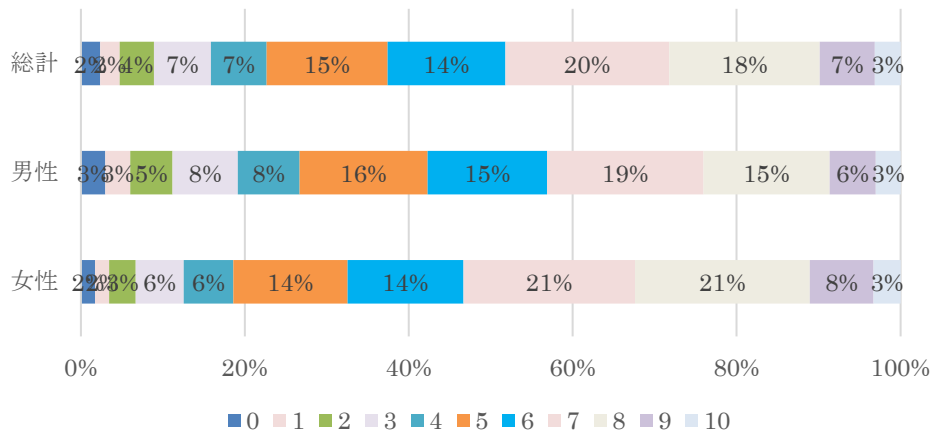
概要図表1-7 q10_6科学技術進歩_経済成長（税込世帯年収別）

2) ウェルビーイング測定項目についての調査結果

本調査では幸福度等をウェルビーイングの測定項目として設定しているが、これらは「文化に関する世論調査—ウェルビーイングと文化芸術活動の関連—(2022年3月文化庁)」^[2]においてウェルビーイング測定項目として設定されているものに準拠した。

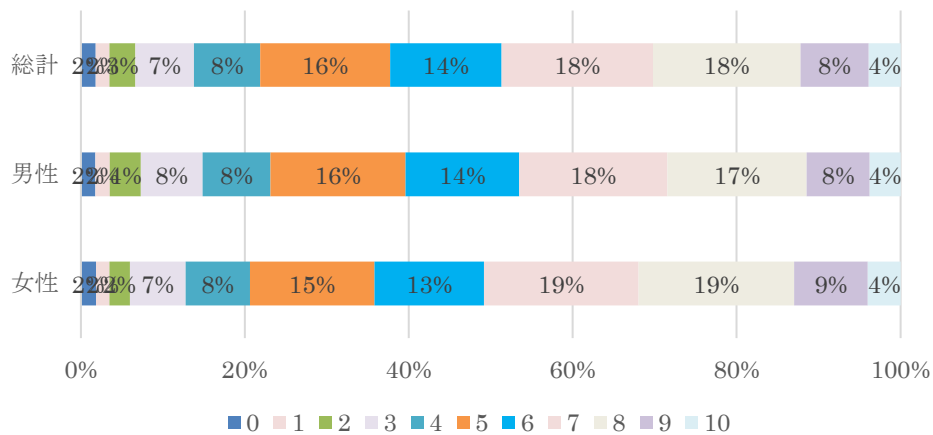
① 幸福度・健康状態

幸福度について訊いた(「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とする)。全体として6点以上の回答割合が62%となった。「性別」(概要図表 2-1)に関して、男性の幸福度が女性に比べて低くなっていることが分かる。



概要図表2-1 q11幸福度p(性別)

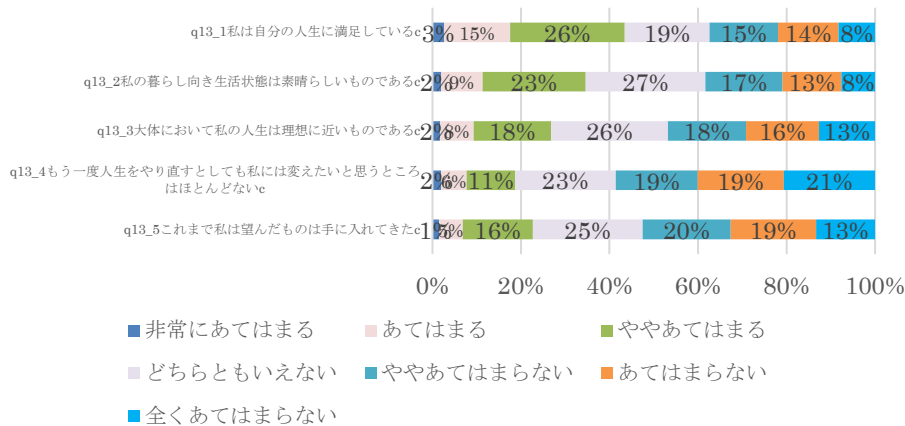
他方、健康状態について訊いた(「とても良い」を10点、「良くない」を0点とする)。全体として6点以上の回答割合が62%となった。「性別」(概要図表2-2)では男性より女性の方が状態が良い。



概要図表2-2 q12健康状態p(性別)

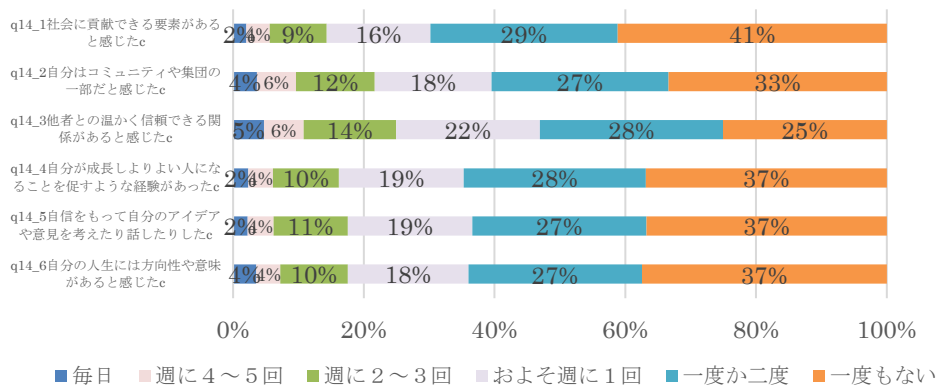
② 人生満足度・人生の意義・協調的幸福感・畏怖畏敬体験

まず人生満足度の項目について、概要図表3では「(非常に、やや)あてはまる」で「私は自分の人生に満足している」が最も高く、44%程度となっている。



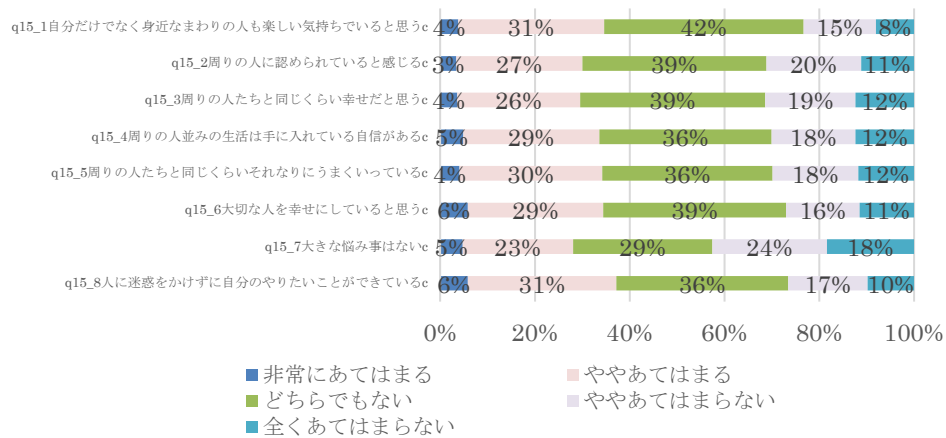
概要図表3 q13人生満足度_総計比較

次に人生の意義の項目について、概要図表 4 では「週に 2～3 回」以上で「他者との温かく信頼できる関係があると感じた」が最も高く、25%程度となっている。



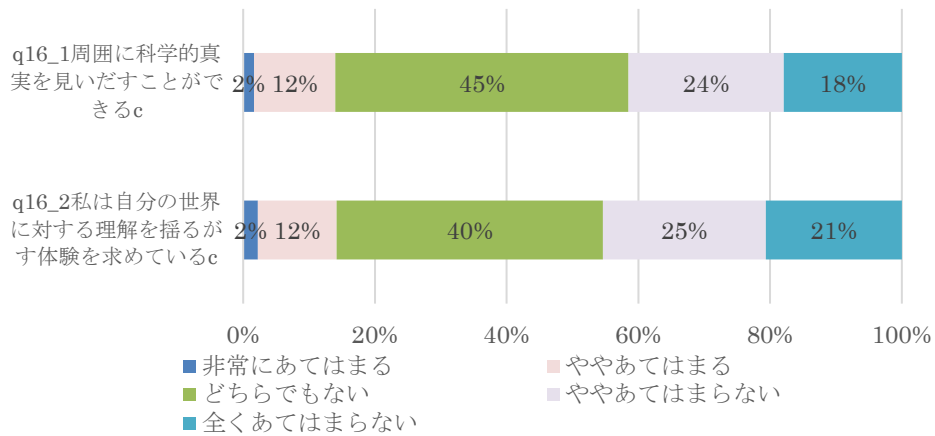
概要図表4 q14人生の意義_総計比較

次に協調的幸福感の項目について、概要図表 5 では「(非常に、やや)あてはまる」と回答した人が多いのは、「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」で 37%、「自分だけでなく身近なまわり的人也楽しい気持ちでいると思う」で 35%、「大切な人を幸せにしていると思う」で 35%などとなっており、項目間の差が小さい。



概要図表5 q15協調的幸福感_総計比較

次に畏怖畏敬体験の項目について、概要図表 6 では「(非常に、やや)あてはまる」と回答した人は 2 問とも 14%となっている。



概要図表6 q16畏怖畏敬体験_総計比較

3) 各ウェルビーイング分野における増進と満足度との間の相関分析

「あなたは、科学技術の進歩が次の増進に繋がっていると思いますか。」に対して、回答と幸福度、健康状態、人生満足度、人生の意義、協調的幸福感、畏怖畏敬体験との相関は概要図表 7 となる。科学技術の進歩が各々の増進につながると回答した者は幸福度等が高いという相関関係がある。本節の議論は相関関係のみであり、因果関係は判定できない。(判定はクラスカル・ワリスの順位和検定(H検定)による、有意性水準 1%、以下同じ)。

| | | YY の水準が高い | | | | | |
|---------------------|-----------------------|-----------|------|--------|--------|---------|---------|
| | | 幸福度 | 健康状態 | 人生満足度* | 人生の意義* | 協調的幸福感* | 畏怖畏敬体験* |
| 科学技術進歩が XX の増進につながる | 家計と資産 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 雇用環境と賃金 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 住宅 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 仕事と生活(ワークライフバランス) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 健康状態 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | あなた自身の教育水準・教育環境 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 交友関係やコミュニティなど社会とのつながり | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 生活を取り巻く空気や水などの自然環境 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 身の周りの安全 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 子育てのしやすさ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 介護のしやすさ・されやすさ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(注)表の縦軸項目と横軸項目の間に相関がある場合「○」、ない場合「×」を示した。例えば、左上の「○」は科学技術進歩が家計と資産の増進につながると考えている人ほど幸福度の水準が高い傾向にあることを示す。

(注)横軸項目中の「*」は当該項目中の小項目の平均データを用いたことを示す。

概要図表 7 q9 科学技術進歩_増進と幸福度等との相関

「あなたは、科学技術の進歩が次の増進に繋がっていると思いますか。」に対して、回答と幸福度、健康状態、人生満足度、人生の意義、協調的幸福感、畏怖畏敬体験との相関は概要図表 8 となる。科学技術の進歩が各々の増進につながると回答した者は幸福度等が高いという相関関係がある(H 検定)。

| | | YY の水準が高い | | | | | |
|---------------------|----------------|-----------|------|--------|--------|---------|---------|
| | | 幸福度 | 健康状態 | 人生満足度* | 人生の意義* | 協調的幸福感* | 畏怖畏敬体験* |
| 科学技術進歩が XX の増進につながる | 多様性 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 公平公正 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 社会正義 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | マイノリティの包摂 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ジェンダー平等 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 経済成長 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 格差是正 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 日本の伝統技術 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 脱炭素 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 政治・行政・裁判所への信頼性 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 生活の楽しさ・面白さ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(注)表の縦軸項目と横軸項目の間に相関がある場合「○」、ない場合「×」を示した。例えば、左上の「○」は科学技術進歩が多様性の増進につながると考えている人ほど幸福度の水準が高い傾向にあることを示す。

(注)横軸項目中の「*」は当該項目中の小項目の平均データを用いたことを示す。

概要図表 8 q10 科学技術進歩_増進と幸福度等との相関

4) 科学技術の発展にともなう不安と満足度との間の相関分析

「科学技術の発展にともなう不安が高まっていると感じていることがありますか。ここに示した中から不安が高まっていると感じているものをいくつかもお選びください。」と各項目について訊いたところ、その回答と幸福度、健康状態との相関は概要図表 9 となる。

| | | YY の水準が高い (*低い) | |
|---------------------------|----------------------------------|--------------------|------|
| | | 幸福度 | 健康状態 |
| 科学技術の発展に伴いXXについて不安が高まっている | サイバーテロ・不正アクセスなどのIT犯罪 | × | × |
| | 遺伝子組換え食品の安全性 | ○ | × |
| | 原子力発電の安全性 | × | × |
| | 資源やエネルギーの無駄遣いが増えること | × | × |
| | 地球温暖化や自然環境破壊などの地球環境問題 | ○ | × |
| | 身近に自然を感じる事が少なくなる事 | × | × |
| | 情報が氾濫しどれを信じればよいかわかりにくくなる事 | × | ○ |
| | 人間的なふれあいが減少すること | × | × |
| | クローン人間を生み出すこと・兵器への利用などに関する倫理的な問題 | ○ | × |
| | 人間が怠惰になること | × | × |
| | 科学技術の進歩が速すぎて自分がそれについていけなくなる事 | × | ○ |
| | 人工知能(AI)などの発達により人間の仕事が奪われること | × | × |
| | 新たな医療技術などが普及しても一部のしか恩恵を受けられないこと | ○* | ○* |

(注)表の縦軸項目と横軸項目の間に相関がある場合「○」、ない場合「×」を示した。例えば左上の「×」は、科学技術の発展に伴いサイバーテロ・不正アクセスなどのIT犯罪について不安が高まっている人ほど幸福度の水準が高いとは言えないことを示す。

概要図表 9 q4 科学技術の発展に伴う不安と幸福度等の相関